

このヒトに  
就労編1  
聞いてみた

# 柳田嘉康さん (78歳)

[株式会社鈴や商事]

“金融業界の次は  
繊維業界にて起業。のちに、  
芸能業界から食品業界へ…”

現在、鈴や商事で牛乳配達の業務を行う柳田嘉康さん。

大学卒業後に金融業界に勤め、44歳で起業。繊維関連の商品を取り扱う会社を立ち上げました。もともと実家が商売をしていたため、いずれは起業しようと考えており、金融業界で勤めた理由もそのためでした。

起業した5年後にバブルが崩壊。その3年後に柳田さんは会社を畳みます。

その後は友人の紹介から芸能事務所に勤めます。運転手から、経理の仕事まで、あらゆる仕事をしました。

そして60歳を超え、就職情報誌を見て自分の家からも近い鈴や商事で働き始めました。

“働くことが  
健康につながっている”

柳田さんの現在の仕事は牛乳の配達です。夜中の3時に配送センターに着き、配達を終えて戻ってくるのは10時から11時頃。週に6日働いており、15年間無遅刻無欠勤を続けています。仕事は歩合制で、体が丈夫な方であれば、仕事量も増やすことができます。



あきば いさお  
秋葉勇夫さん [株式会社鈴や商事 代表取締役]

### 雇用主の声

私たちの会社には柳田さん以外にもシニアの配達スタッフがいます。これからシニアの雇用は伸びてくると考えています。ただ、最初から「稼ぎたい」がたくさん出てしまうと、どうしても無理をして、続かなくなってしまいます。続けていくためには柳田さんのように、健康に気を使い、無理をしない範囲で徐々に広げていくのがコツになってくるのではないかと思います。

※勤務先、年齢は取材当時のものです。



配達センターで  
愛車の前に立つ  
柳田さん

このヒトに  
就労編2  
聞いてみた

# 新澤直子さん (62歳)

[尚和園]

“好きな英語を生かしたくて  
退職し外資系企業へ”

新澤さんは高校卒業後に英語の専門学校を経て、一般企業に事務職で就職しました。そこで5年半働きましたが「自分の好きな英語を生かす仕事をしたい」と考え、外資系企業に転職して秘書業務として働きました。その後は知人がベンチャーを立ち上げる際に転職するなど、様々な

職場で働き続けてきました。

“障害者福祉から  
老人福祉へ”

50代前半で心身ともに疲れてしまい、学びなおしの時間を作ろうと考え、資格を取得し聴覚障害者のコミュニケーション支援の仕事が3年間続けました。その後、シルバー人材センターのチラシを公共施設で手に取り、入会しました。

かねこ やすし  
金子康さん [尚和園 事務局長]

### 就業先の声

私たちのところには新澤さんのような方がたくさん働いています。現在は約270名のスタッフの約半数が60歳以上です。世代に合わせた働き方を考えたときに、健康状態や働き方、家庭の事情もいろいろあるので、それに合った働き方をすべきです。また、雇用する側もその方が培ってきた経歴や経験を尊重することが大事になってきます。

※勤務先、年齢は取材当時のものです。

「仕事の内容も豊富で自分に合うものが選べ、年齢制限もない。時間的に余裕のある仕事をしたい、社会とつながっていたいという人にはシルバー人材センターは最適」と新澤さんは言います。そしてシルバー人材センターで紹介された老人福祉施設尚和園で働き始めます。

尚和園では職員が休みの日曜祝日に日常的な日直業務を行っています。もともと東浦和育ちで、現在も在住の新澤さんにとっては家からも近く通いやすい職場。「以前のように満員電車で都内へ通勤することは難しいが、地域密着で仕事を増やすことも考えている」と言います。

そして仕事だけではなく趣味の時間も作っており、フィットネスジムやお花、キーボードの演奏といった習い事にも通っています。

“仕事をすることが自分の  
達成感や希望につながる”

新澤さんにセカンドライフの過ごし方について尋ねると「仕事をしていると大変なこともたくさんあるが、自分の達成感や希望にもつながる。新しい世界を知ることでもでき、新しい友達もできる」と言います。新澤さんは「仕事でも趣味でも何かの活動でも構わない。それらを通じて学び続けることで自分自身の多様性を育てることができる。そして結果として地域社会に貢献できればうれしいし、充実した人生にしていきたい」と笑顔で話してくれました。



誰もいない  
休日のオフィスで  
ひとり仕事をする  
新澤さん

仕事と趣味を通じて学び続けることで、自分を多様化できる

60歳を超えて  
15年間、無遅刻無欠勤  
働くことで健康に